名大の時間 -634

4年間の実習を終えて

先日、看護学生としての最後の実習が終了しました。相変わらず実習では緊張と不安が絶えず、実習中は「いつ終わるのだろう」と考えてしまうこともありました。しかし、終わってしまえばあっというまで、今振り返ると実りある実習だったなと強く思います。

実習は1年生から4年生まで計23週間の期間があります。1年生の実習は1週間だけで、緊張とワクワクの気持ちで病院へと向かいましたが、病棟で感染症が流行してしまい、1週間のほとんどが学内実習となりました。

ですので、実際に病棟で実習を行ったのは2年生が初めてとなります。初めて患者さんを受け持ち、バイタルサインを測定するときに手が震えていたことは良い思い出です。

3年生の実習は、4年間のなかで1番辛いと先輩や先生から聞いていたのでかなり身構えていました。しかし、1、2年生と実習を重ね、知識もついてきていたことで、病院に行くことや看護技術を行うことに怖がっていた自分が、いつの間にか「患者さんのために何ができるだろう」と考えられるようになりました。

自分が考えたことを実践し、患者さんから笑顔や「ありがとう」という言葉をいただいたときの嬉しさは今後も忘れないのだろうと思います。4年生では数々の領域実習を行い、迎えた統合実習。1人で患者さんを2人受けもつと知ったときはかなり不安になりましたが、同じ病棟で実習する仲間と励まし合いながら頑張りました。



実習では、根拠を持って優先順位を立てるということにかなり苦戦しました。しかし、仲間と話し合い、時に手伝ってもらいながら全力を尽くすことができました。すべての実習が終了し、今は看護師国家試験の勉強と卒業研究に力を注いでいます。

周りの友人も勉強を始め、どんどん成績を伸ばしているので、実習が終わっても気を抜けません。仲間と切磋琢磨しながら、素晴らしい看護師になれるよう今後も頑張っていきたいと思います。

看護学科4年
新田蓮晟